

---

zero

椿 光太郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

zero

### 【Nコード】

N0782Y

### 【作者名】

椿 光太郎

### 【あらすじ】

12人の魔法使い、20人の騎士団、破滅の天使（破壊の剣）、白悪魔（黒天使）、狂気の織り手。それぞれは何を思うのか…。

## プロローグ1 騎士団の場合

深夜の住宅街に、二つの足音が響いている。

薄暗い街灯に照らされた道を歩く一組の男女が、奥の闇へと進んでいく。

辺りに気配はない。似たような風体の、しかしどこか異なった印象の二人だけが、秒針のような規則正しい足音を、深い静寂に流していた。

「ちっ……………」

「怖ええなオイ、いきなり舌打ちすんなよ。なんかあったのか？」

「大集会つてのは、もっと余裕のある組織だと思ってたのよ」

「はあ」

女の方。カッターシャツにチェックのプリーツスカートという格好に、髪型はボブカットで暗めの茶に染められている。いかにも最近の女子高生といった感じだ。

「いくら場所がないからって、何も日本の、しかも地方の公民館を借りて、ってどうなのよ。私達の徴集に使うには、少しお粗末だと思わない？ むしろ交通費の方が嵩むわ」

ぼやく彼女の隣で、男が微笑する。

「確かに気持ちはわかるけどな、あんまり文句ばっか言ってやるなよ。実際問題、こんなところで呼び出される連中にとっちゃあたまつたもんじゃないだろうけど、逆に言えばこんな極東のだからこそ、だろ」

「……そういうものか、…しら？」

茶髪の彼女とは対照的に、男の方は、黒いTシャツにジーンズ姿というラフな格好だった。黒髪ではあるが、背が高く割と色白であるところを見ると日系人なのかもしれない。

「そういうもんだよ。騎士団の中で？まともな人間？なんてのはお前ぐらいしか居ないだろ？俺だつて大陸の大都市じゃあ全然力だせないし、あいつなんか存在自体が奇跡みたいなもんだ。辺境の、しかも夜ぐらいにしか外にも出れないだろうな。そう考えたら？神の国？と呼ばれるこの国はもってこいだ。八百万の神が住む土地は伊達じゃないな、大陸とはケタ違いだ。まあ、大集会の頑固爺共でもそれぐらいは気が利くんだよ、秋奈<sup>あきな</sup>」

突然、秋奈と呼ばれた女が吹き出した。

心底おかしい、と。

その声には明らかに嘲笑が入り混じっていた。

「気が利く?! ボケたのか、アルト? 連中にそんな理性が残つてると誰が信じる?! じゃあ聞くが、このはからいはお前にとつても? 気の利く?と言えるのか?」

「まさか、ただの嫌がらせだろ。それよりもお前」

アルトは口の前で、両手の人差し指を交差させた。

「なんだ？」

「言葉遣い、戻ってんぞ」

「あらいけない、これでいいかしら？」

秋奈が意地の悪そうに微笑する。

年頃の少女がするには、とても似つかわしくない仕草だった。

「猫被んのやめろよな。つーか、英国紳士として言わせて貰うけどその言葉遣いの汚さはどうなんだよ。日本の女性はヤマトナデシコなんだから？ もうちよっとお淑やかにしてみたらどうだ」

「いつの時代の話をしてるのよ。別に良いの、帰国子女で日本語が不自由って設定だから」

「設定とかいうな」

「それに先の大戦で、うちのおばあちゃんは米国陸軍の陣地に単騎で乗り込んで、大打撃を与撃を与えたそうよ」

「すげえなおばあちゃん！」

「それを俗にパールハーバーと言うらしいけどね」

「すげえなおばあちゃん！ むしろ日本男児だろ！！」

「だいたい、本物の英国紳士もそんな言葉遣いしないでしょ」

「俺が偽物だとも言いたいのか！ 俺は良いんだよ、英国紳士モードに入ったら英語で喋るから」

「モードいうな。第一、その確変に入ることはないわ」

「……まじか」

……… 楽しげな二人だった。

それ以降も賑やかに会話を続けながら進んでゆく。

道路の深い闇は、さらに続いていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0782y/>

---

zero

2011年11月15日21時32分発行